

J1王者はなぜ優勝を逃したのか？

～史上最強・川崎フロンターレ2019年の戦い～

背景

2017年、悲願のJ1初優勝を果たした川崎フロンターレ(川崎F)。その後リーグ連覇を果たし、直近5年で4度のJ1リーグ優勝。しかし、唯一2019年シーズンはリーグ戦4位と優勝を逃すこととなった。そこで本研究では、2019年に起こったこれまでの変化を探り、史上最強の川崎Fの強さに迫ろうと考えた。

目的

2019年シーズンに順位が伸び悩んだ原因を明らかにすることで、川崎Fの強さの要因を分析する。

研究方法

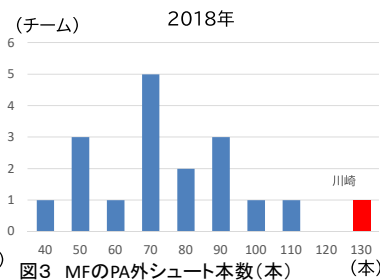
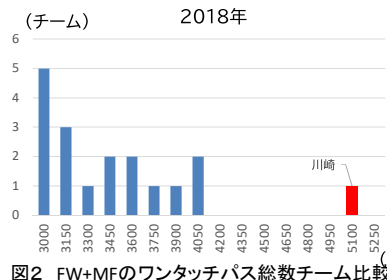
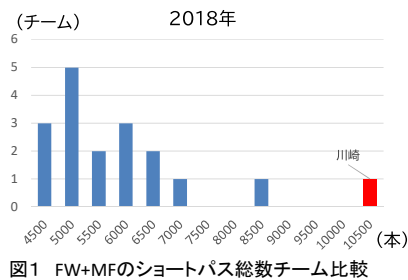
2017, 2018, 2019のJ1チームデータ、選手データから、以下の項目について分析をする。

●FWとMFのパス ショートパス・ワンタッチパス・クロス ●FWとMFのシュート ペナルティエリア(PA)外からのミドルシュート

これにより、パスサッカーと言われる川崎Fのプレースタイルを確認し、2817・18と2019における変化を見つける。

研究結果

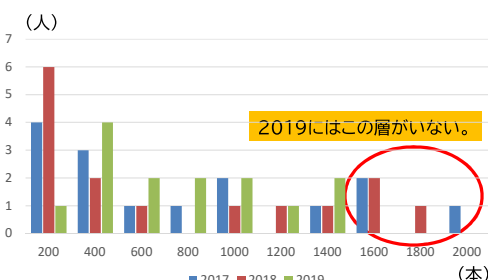
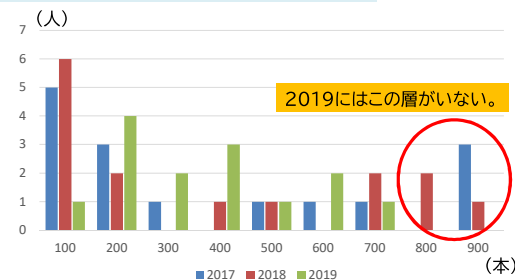
分析1 川崎Fの特徴を探る



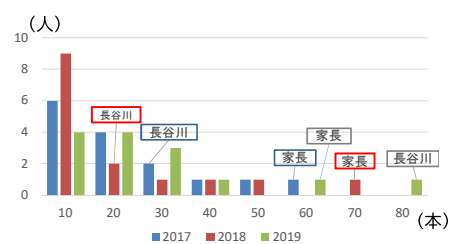
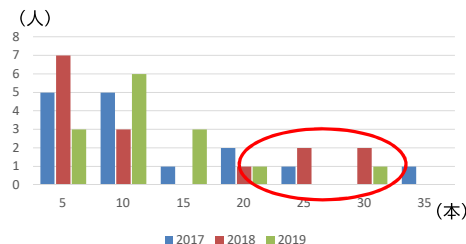
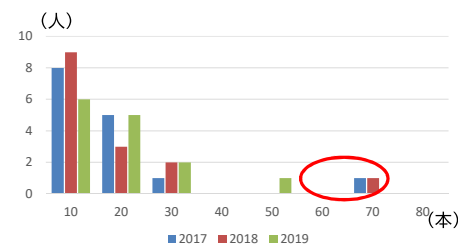
○図1, 2より、川崎Fのショートパス数、ワンタッチパス数は他を圧倒している。
○図3よりPA外からもMFが積極的にシュートを打っていることが分かる。
○ショートパス、ワンタッチパスの多さは、それに連動する選手の動きの多さも示唆する。
○パスと人が一体となって動く川崎Fのスタイルが見てとれる。

川崎Fの得意としていたプレーが明らかに！⇒その“質”は2019年シーズンにも維持されていたのかを分析！

分析2 2019年の低迷の理由を探る



○図4は、川崎FのFW, MF各選手のワンタッチパス数の3年比較である。図5は、同じくショートパス数の3年比較である。いずれも、パス数が多く、攻撃の起点となっていた選手がいなくなっていることが分かる。それは、移籍によるところが大きい。
○ワンタッチパス数については、2018と2019において、f検定により分布に有意差があることが認められた。



○図6, 7からは、2017, 18にはパスサッカーにより、破れを作り、PA外からも積極的にシュートを打っている様子が分かるが、2019年は多く打っている選手がいなくなっている。
○18年の強さの影響により、ディフェンスが警戒したということもあるだろうが、ショートパス、ワンタッチパスによる流れるようなパスサッカーが崩れ、シュート数が少なくなったと考えられる。
○図8には、2019年までクロスパスの数が少なかった選手がチームをあげており、戦術の変化が見られる。高身長外国人選手が加入したため、その選手にクロスパスで合わせるというプレーが多くなったと考えられる。

結論

2019シーズンリーグ戦4位となったその原因として、ショートパス、ワンタッチパスの減少があげられる。従来、パスと人の素早い動きでディフェンスの隙をつき、PA外からも多くのシュートを放っていたが、それが崩れ、FW, MFのミドルシュートが減少した。その要因としては、移籍により加入した選手が馴染むのに時間がかかったことが一つ考えられる。素早いパスサッカーに適合できず、パス数、シュート数ともに減少し、前年度までの戦いができなかった。他にも要因はあるだろうが、今回は明らかにできなかった。

今後の展望

今回の研究で川崎Fの「強さ」はパスと人が一体となったサッカーで、リーグ内では群を抜くコンビネーションであることが明らかになった。川崎Fは、2020, 2021シーズンでは王者に振り返り、別次元の強さを誇っている。そこには、フォーメーションを4-3-3に変更し、よりパスと人の動きを重視した戦術に変更した経緯がある。今後は、さらなる進化を遂げた川崎Fの秘密を探りたい。

謝辞

データを提供して頂き、貴重な研究機会を与えてくださった情報・システム研究機構 統計数理研究所 医療健康データ化学研究センター様、データスタジアム 株式会社様に深く感謝申し上げます。